



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

年間第 33 主日 B 年 (2024 年 11 月 17 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：ダニエル書 12 章 1－3 節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 10 章 11－14、18 節

福音朗読：マルコによる福音書 13 章 24－32 節

第一朗読の冒頭^{ぼうとう}に^{くぼ}ころを配^{くば}ってみてください。1 節に「その時」とあります。実は朗読箇所^{くわんしょ}の直前に「海とあの『麗^{うるわ}しの地』の聖なる山との間に天幕^{てんまく}を張^{しゆくえい}って、王の宿営とする。しかし、ついに彼の終わりの時^{とき}が来るが、助ける者はない」（11 章 45 節）とありますから、「その時」とは終わりの時を指します。終わりの時は破滅^{はめつ}ではなく、「救われる」時です（フランシスコ会訳は「みな救われる」）。聖書^{せいしょ}の示^{しめ}す終末^{はきよく}は、破局^{ふく}の意味^{いみ}を含みながらもそれに留^{とど}まりません。救いの要素^{きうい}もあります。

そして、2 節には「目覚める」ともあります。旧約聖書の中で死者の復活^{めいかく}を明確^のに述べる最初の箇所^{くわんしょ}です。この箇所はマカバイ戦争（前 166 年—前 142 年）の時代に書かれました。マカバイ戦争はセレウコス朝シリアへの叛^{はん}乱^{らん}ですが、特にシリアは、ゼウスの神を礼拝するようにと強要^{きやうよう}しました。異教^{いききやう}の神を偶像^{ぐう}礼拝^{らいはい}するのを拒絶^{きよぜつ}して死んでいった人々はいわば信仰^{しんぎやう}に殉^{じゆん}じた殉教者^{じゆんきやうしや}です。その彼らが、死者^{しや}がいる陰府^{よみ}に落ちたままでいいのだろうかという疑問^{ぎもん}が人々に生じたのでしょう。そこから、死後の命についての再考察^{さいくわんさつ}が生まれていきました。信仰^{しんぎやう}を守り抜いた者には、復活^{ふくたつ}と永遠^{えいゑん}の命が保障^{ほくがひ}されているのです。復活^{ふくたつ}の信仰^{しんぎやう}をユダヤ人が受け入れるようになった背景^{はいけい}にはこのように、異教徒^{いききやう}からの迫害^{はくがい}がありました。死者^{しや}が目を覚ました後^{のち}で、裁^{さば}きが生じます。「永遠^{えいゑん}の生命^{せいめい}に」入ると、「恥^{はじ}と憎悪^{ぞうお}の的^{てき}」となる人に分けられます。

第二朗読では、14 節の「唯一^{ゆいいつ}の献^{ささ}げ物^{もの}」に注目^{ちゆめい}してみてください。「唯一^{ゆいいつ}の献^{ささ}げ物^{もの}」とは 12 節の「唯一^{ゆいいつ}のいけにえ」と同じことです。それはイエスさま自身が十字架^{じゆうじや}上で献^{ささ}げ物^{もの}となったことを指します。「完全^{てんぜん}な者とする」はギリシア語原文^{ごりしやご}はテレイオオーですが、「目的^{とつたつ}的に到達^{とつたつ}」

させる、完了させる」の意味だそうです。それが『ヘブライ人の手紙』では祭儀的な意味合いを持たせて「聖別する、清める」へと発展します。ですから「聖なる者」（ハギアゼイン）とほぼ同義と理解してよいでしょう。大祭司キリストが一度限り自分自身を献げ物として献げたから、人と神は新しい関係に入ることができ、「聖なる、完全な」ものとなったのです。「完全な者となさった」（テレレイオーケン）ですが、文法的には完了形です。完了形は現在までの継続も表しますので、キリストの犠牲においてすでに完成した贖罪の業が、現在も個々の信者に継続されているという意味合いがあります。

福音朗読ですが、『マルコによる福音書』13章は「小黙示録」と呼ばれています。ここで、イエスさまは終わりの時を語っています。

1—4節は、その導入となります。神殿の崩壊が預言されて、「これらのことはいつ起こるのですか」と弟子たちが問いかけます。

5—23節では終わりの時に先だつ、苦難の数々、苦難の日々が説明され、その日のことをイエスは「気をつけていなさい」と呼びかけます。なぜなら偽預言者によってその時が惑わされるかもしれないからです。

24—27節には、終わりの時に来る「人の子」と、選ばれた人が集められることが伝えられ、その時は近く、必ず来ると主張されます（28—31節）。

しかし、その日を知るのは父なる神だけであり、他の誰も知らないから「目をさましていなさい」とイエスは励まし、諭します（32—37節）。

【ちょっとひと言】

第一朗読の最後に「大空の光のように輝き」（3節）とあります。死者の中から復活した人は光の源から光を受けて、その光を輝かし返します。人はその輝きを受けるのです。

第二朗読には「完全な者」（14節）とあります。完全な者とは神のいのちを生きるようになる者のことです。そして、福音朗読には「呼び集める」（26節）とあります。多くの人を御父から受けた光で輝かせ、完全な者とするために、キリストはわたしたちを終わりの時に呼び集めるのです。

終わりと聞くと破滅しか想像できませんが、終わりは完成の時です。完成の時にキリストがその中心にいるようになります。